

数字のマジック

特養ホームの待機者についての厚労省発表について

特養ホームの待機者の状態について、約42万人であるとの厚労省の発表がありました。それについて、概要を作成して発表していますが、集計数値を発表用に加工する過程で多様なノイズが入ってきます。例えば、今回の報道発表の概要は次の表により行われています。

厚労省がまとめた概要

	要介護1～3	要介護4. 5	合計
全体	243,000	179,000	421,000
構成比	57.6	42.4	100
うち在宅	131,000	67,000	199,000
構成比	31.2	16	47.2
在宅以外	111,000	111,000	222,000
構成比	26.4	26.4	52.8

ここから読み取れることは、待機者と言っても軽度の方が過半数で本当に必要な人は半数以下です。

要介護3までを何となく「軽度」とイメージさせてしまう。これが「加工された数値」の怖さです。

要介護3を右側に移した場合の概要

	要介護1～2	要介護3～5	合計
全体	132,000	289,000	421,000
構成比	31.4	68.6	100
うち在宅	68,000	131,000	199,000
構成比	略		47.2
在宅以外			222,000
構成比			52.8

こんな感じに変わります。

要介護3以上の重い人が7割も特養ホーム入所を待っているんだ、大変だとなります。

元のデータが同じでもこのように数値の取り方によって事実のイメージが変わります。

ここからよく言われるのは「加工された数値」は考えようということです。

今回は、特養ホーム待機の実数字を使って、統計の怖さについての説明でした。